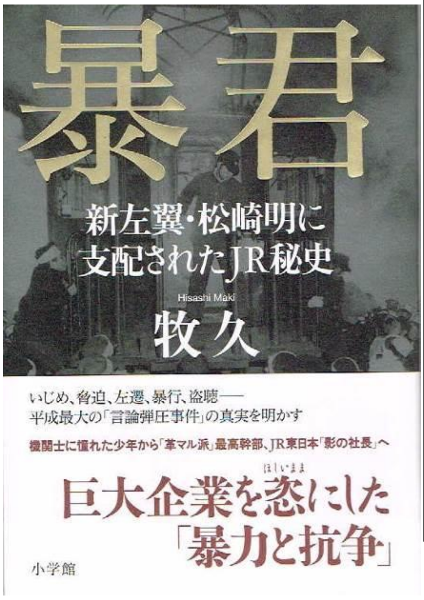
２０１９年（令和元年）　５月１２日　　　　　　　　　　　　　Ｎｏ．５０

ｅ ユニオン仙台 メール情報

JRTU JR連合

ジェイアール・イーストユニオン
仙　台　地　方　本　部

新左翼・松崎明に支配されたＪＲ秘史
牧　久氏の著書「暴君」発売！



序　章「天使と悪魔」
第1章　”隠れ動労“
第2章　松崎明またの名を革マル派副議長・倉川篤
第3章　「労使ニアリー・イコール論」
第4章　大分裂
第5章　盗撮スキャンダルと平成最大の言論弾圧事件
第6章　革マル派捜査「空白の十年間」
第7章　反乱
第8章　警視庁「松崎捜査」へ
第9章　Ｄ型もＤ民同へ涸谷へ
終　章　三万四千五〇〇人の脱走

牧氏は松崎氏について「日本の労働運動が燃え上がった戦後昭和で、もっとも先鋭的で過激な活動を繰り広げた「動労」の闘士として当局の合理化(リストラ)に猛然と反発、「鬼の動労」の象徴的存在となった。しかし、中曽根政権が進めた国鉄の分割・民営化に徹底抗戦する「国労」を切り捨て、それまで犬猿の仲だった、当局よりの「鉄労」と手を組み、組織を挙げて労使協調、民営化賛成に回り大転換の先頭に立った。松崎のコペルニクス的転換とも呼ばれたこの男の見事な変心によって「国労」は瓦解し、分割・民営化は軌道に乗って走り始める。松崎は「国鉄改革」の最大の功労者のひとりとなったのだ。そして、民営化後、崩壊した「国労」に変わりＪＲの組合を率い、会社側にも「影の社長」のような権勢を振るうことになる。（中略）だが、松崎には労働組合とは別の、もうひとつの顔があった。非公然部隊を組織し、陰惨な「内ゲバ」で数々の殺人・傷害事件を起こしてきた新左翼組織「革マル派」の幹部であったのだ。

さらに、「三万四千五〇〇人の大脱走」の章で、2018 春季生活闘争におけるスト権行使に伴うＪＲ東労組の組合員大量脱退について、労使共同宣言の失効により労使癒着に完全に終止符が打たれたことにも触れている。